



〇 きらり

本校の特色ある取り組みの一つに子育て広場「きらり」の活動があります。毎週火曜日に3歳くらいまでの幼児と主にお母さんがやってきて、オープンスペースで遊んだり歌を歌ったり運動をしたりして交流するイベントです。この時間学生たちは通常は授業中なので子どもたちと出会えるのは休み時間くらいですが、貴重なふれあいの場ともなっています。

秋になり、リズム・音楽表現の時間を活用して1年生がクリスマス会に向けて劇や歌その他いろいろと子どもたちと楽しめる“出し物”を練習してきました。16日のオープンキャンパスでも一部演じますが、このたび11日(火)に“お客さんたち”の前で披露しました。先輩の2年生も見学に加わり、多くの人々で多目的教室がにぎやかになりました。実際のクリスマスはもう少し後なので、「あわてんぼうのサンタクロース」がぴったりでした。

内容が盛りだくさんで全部が終了するまでに45分くらいかかったため、小さな子どもたちの中には発表の中身とは興味がそれていきそうな子もいましたが、全体的には想像以上に集中して見てくれていたように思いました。工夫して作った大・小道具や一生懸命な1年生の演技がそうさせてくれたのだと思います。OCでは見てもらう対象が高校生と保護者なのでむしろやりにくいかもしれませんが、そのときも変わらぬ頑張りを期待しています。

さてこの“会”を見学しながら少し思ったことを紹介したいと思います。まだまだ幼い子どもから見た大人はどんなふうに見えるのかな?ということです。自分が小学校を卒業して中学校に入学したとき(もうかなり前のことですが)に出会った中学三年生はものすごく大人に見えたことを今でも鮮明に覚えています。やや悪い表現で言えば、皆“おっさん、おばさん”でした。ある意味怖くてたまりませんでした。そのため断り切れずに柔道部に入り、三年間“痛い”思いをして過ごしました。(体力はつきました。)

二十歳前後の学生たちは私から見れば年齢的には子どもです。しかし2~3歳の幼児から見れば周りの人間は皆大きな大人でしょう。中には怖いと思っている子もいることでしょう。人見知りせずにコミュニケーションを積極的に行う子もいますが、多くの子は周りの状況を探っているのではないかと思います。危害を加えられそうになったら即お母さんの元へという態勢です。クリスマス会など多くの人間が同じ会場にいる場合、見知らぬ人はたくさんですね。そういった心の不安をもっているであろう子どもたちとのふれあい方には、園の仲間と一緒に遊んでいるときとは違う配慮が必要になることでしょう。このようなイベントを多く経験することにより、学生たちはいろいろなスキルを身に付けていくことでしょう。

ちなみに「きらり」に参加している子どもたちは“私”のことをどれくらい認知しているでしょうか?名前も立場も知らないと思います。ただ「メダカのおじさん(おじいさん)」というふうには思ってくれているようです。

自校自賛

「きらり」での発表の一コマです。
笑顔で盛り上げようと頑張りました。

お詫び

KOCHO だより 84号の表題「Job Macthing」が間違っていました。
正しくは「Job Matching」です。訂正前のたよりをお読みいただいた方々へお詫びして訂正いたします。

